



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



アラスカ州における播種性淋菌感染症の増加

アラスカ州で2023年から2024年にかけて急増した播種性淋菌感染症に関する疫学調査の結果をCDCが報告しているので紹介する(1)。

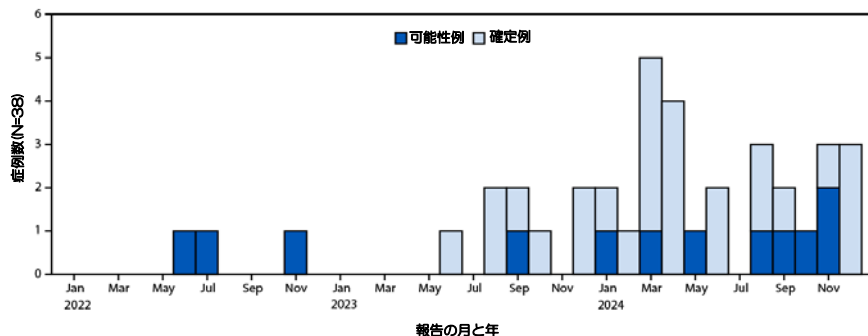
■播種性淋菌感染症の脅威とアラスカでの現状

- 播種性淋菌感染症 (DGI: disseminated gonococcal infection) は、*Neisseria gonorrhoeae*が局所の感染部位から血流を介して全身の組織へ広がる、稀ではあるが極めて重篤な淋菌感染症の合併症である。
- アラスカ州では、2023年から2024年にかけてDGIの症例数が持続的に増加しており、特に2024年は全淋菌感染症例の1.3%を占め、前年の約3.7倍に達している。
- 本報告は、アラスカ州疫学部門が実施した2023年から2024年までのDGI症例の疫学的調査および細菌学的解析の結果をまとめ、臨床現場での判断力を高めることを目的とする。
- DGIは適切に治療されない場合、敗血症性ショックや心内膜炎、髄膜炎、さらには死に至る危険性があり、アラスカ州では、2025年7月にDGI関連死亡例が初めて報告された。
- たとえ尿道炎などの典型的な症状がなくても、リスクのある患者において関節痛や発熱を認める場合には、常にDGIを疑う必要がある。

■症例の定義と疫学的背景

- DGIの確定例は、滑液や血液、皮膚病変などの播種部位から、培養または核酸増幅検査 (NAAT) で淋菌を検出した例と定義された。
- 可能性例は、臨床症状がDGIと矛盾せず、淋菌が粘膜部位からのみ検出され、かつ他の原因疾患が特定できない例と定義された。
- 35人の患者データによると、性別は男性が51.4%、女性が48.6%とほぼ同等であり、特定の性別に偏ることなく発生していた。
- 患者の年齢中央値が36歳であり、人種別ではアメリカインディアンまたはアラスカ先住民が31.4%と最も多い割合を占めていた。
- 患者の社会的背景として、37.1%に薬物使用の既往があり、その中にはメタンフェタミンの使用や静脈内薬物使用が含まれており、本調査結果を受け、薬物使用を含むリスク因子を有する患者をスクリーニング対象に含めるよう推奨を拡大した。
- 2024年の月別症例報告数は2023年と比較して顕著に増加しており、特に3月には単月で5例もの確定例および可能性例が集中している(図)。

図. アラスカ州における播種性淋菌感染症の可能性例および確定例の症例数、報告された症例の月と年別(2022年6月～2024年12月)*



* 疫学的症例分析は、2023年から2024年の間に報告された症例に限定された。2022年の症例は、歴史的背景と検査室での状況を示すために含まれている。

■臨床症状と診断上の重要事項

- DGIの最も一般的な臨床症状は化膿性関節炎で全体の60%を占め、次いで発熱が37%、多発性関節痛が34%、腱鞘炎が26%の患者に認められた。
- 非常に深刻な合併症として、3人（9%）の患者が心内膜炎を発症した。また、外科的介入を要した20人の患者中には、心臓弁置換術が実施された2人が含まれていた。
- 診断において極めて重要な点は、DGI患者の80%が尿道、咽頭、直腸などの初感染部位における粘膜症状を全く訴えていなかったという事実である。
- 粘膜症状の欠如は診断の遅れを招く要因となるため、関節痛や皮疹を主訴とする患者の診察時には、徹底的な性的な病歴聴取と身体診察を実施する必要がある。
- 全患者の88.6%が入院治療を必要とし、57.1%が関節の洗浄やデブリドマン、心臓弁置換といった外科的介入を余儀なくされており、その疾患の重症度が示唆されている。
- 診断率を向上させるためには、疑わしい部位の穿刺液だけでなく、無症状であっても露出している粘膜部位すべてから、NAATおよび培養用の検体を採取すべきである。

■細菌学的解析と薬剤感受性

- 薬剤感受性試験の結果によると、2020～2024年に採取された患者由来のDGI分離株18株において第一選択薬であるセフトリアキソンおよびセフィキシムへの感受性が維持されていた。
- 一方で、ペニシリンやテトラサイクリンに対する高度耐性が多くの株で確認され、特定の耐性遺伝子の保有も裏付けられている。
- 全ゲノムシーケンス解析の結果、アラスカ州で発生したDGI症例の多くは遺伝的に高度に関連しており、特に新型の多座位配列型であるMLST-18036のクラスターが特定された。
- この新しいMLST-18036株の全症例は、淋菌の播種と関連があるとされる*porB1A*対立遺伝子を保有しており、これが病原性増強や播種性に関連する可能性を示唆している。
- 2023年から2024年にかけて分離されたDGI株のSNP解析では、同地域で同時に流行していた一般的な尿道炎などの淋菌株とは遺伝的な近縁性が認められなかった。
- この発見は、播種しやすい特性を持つ特定の淋菌株がアラスカ州内で遺伝的に関連する株の拡大を示唆しており、公衆衛生上の警戒が必要である。

■臨床現場への提言と公衆衛生上の対策

- 臨床現場においては、臨床症状からDGIを疑った場合、経験的治療を開始する前に可能な限り培養検体を採取し、確実な診断と薬剤感受性の確認を行うことが強く推奨される。
- 治療に関してはCDCガイドラインに従い、重症例では感染症専門医へのコンサルテーションを行いながら、セフトリアキシンの静脈内投与による入院治療を原則とすべきである。
- アラスカ州保健当局は、DGIの増加を受けて淋病のスクリーニング推奨範囲を拡大し、薬物使用や複数の性的パートナー、性感染症の既往といったリスク因子を持つすべての性的に活動的な患者を対象としている。
- 診断された症例の迅速な報告は、公衆衛生部門によるパートナーサービスを加速させ、無症状の感染者を発見・治療することで、地域社会でのさらなる伝播を阻止するために必要である。
- 本報告で示された制限事項として、無症状の感染者が多いことや検体採取の不完全さから、実際のDGI症例数は報告されている数よりもさらに多い可能性が指摘されている。

[文献]

1. Rogers JH, Ohlsen E, Stump JC, et al. Increase in Disseminated Gonococcal Infections — Alaska, 2023–2024. MMWR Morb Mortal Wkly Rep 2026;75:349–353.
DOI: <http://dx.doi.org/10.15585/mmwr.mm7527a2>
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/75/wr/pdfs/mm7527a2-H.pdf>

株式会社メディコン
カスタマーサービス www.bdj.co.jp/s/cs/

bd.com/jp/

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.
© 2026 BD. All rights reserved.